

相談援助実習指導Ⅲ

専門教育科目／2単位／TS授業

担当教員 山崎きよ子 川崎順子 貫優美子 日田剛 三宮基裕 山崎睦男

※添削とスクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト

早坂聡久ほか責任編集
『社会福祉士シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導 第3版』弘文堂

◆参考テキスト

・社団法人 日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版
・新日本法規『社会福祉六法』(最新版)

講義概要・一般目標

相談援助実習指導の目標は、①相談援助実習(以下、現場実習)の意義について理解する②現場実習に係る個人指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する③社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養するとなります。

相談援助実習指導Ⅲでは、現場実習で実際に体験した活動内容について振り返りを行います。まず、実習前に掲げていた実習課題についてどの程度達成できたのか、課題達成に対する考察を実習報告書にまとめます。次に、スクーリングでは、現場実習を履修した学生同士や担当教員とともに、実習における学習成果を共有し学びを深めます。この振り返りの作業を通して、自分の実習した施設や分野以外の状況を学ぶとともに、今後の自分の目標とする社会福祉士像に向けての学習課題を明確にしていきます。これは、卒業後の進路選択の一助となることでしょうか。現場実習で体験したことをいかに深く洞察するかによって、現場実習の成果は大きく変化していきます。

到達目標

- 1) 実習の振り返りを行い、実習課題の達成状況を整理することができる。
- 2) 援助関係の形成状況を振り返り、自己課題が明確に説明できる。
- 3) 実習を踏まえて、専門知識・技術を体系化して説明できる。
- 4) 実習の総括を行い、報告書にまとめることができる。
- 5) 実習状況の相互発表、指導者からの評価を受け、自己評価できる。

評価方法

T部分：提出物「実習報告書」により評価。

S部分：出席状況(遅刻・欠席は不可)、受講態度、科目単位認定試験(スクーリング最終日に実施)。

学習指導

第11章 自己評価と実習報告

実習を振り返り、実習前に掲げた実習課題がどこまで達成できたのか、実習での学びを客観的に理解し、実習課題の達成状況や課題を意識化し、実習報告書にまとめていく。

「実習報告書」記載内容

1) 実習施設の概要

実習施設は、どのような理念に基づき、事業を実施しているのか、その施設の特徴等について、4行程度にまとめる。

2) 実習内容

実際に実施した実習プログラム内容を明確にかつポイントを整理して6行程度にまとめる。

3) 実習課題及びその達成状況

実習計画書で立てた実習課題ごとに、どのような実習場面で何を学ぶことができたのか、またどの程度達成できたのかについてまとめる。

4) 考察とまとめ

実習全体を通して、実習では何を学ぶことができたのか、ソーシャルワーカーのあり方等新たな気づきや今後の自己課題をまとめる。

第12章 事後学習

実習を通して「うまくいったこと」や「うまくいかなかったこと」などを振り返り、学びと気づき深め、ソーシャルワーカーになるために求められる資質や価値、知識、技術のあり方を理解する。

*スクーリングでは、実習の活動内容を振り返り考察していく。振り返りシートを用い、グループで意見を出し合い、実習成果をまとめる。その成果を発表し合い、学びや気づきの共有をはかり総括していく。